

R5 運動部活動の運営と休日の地域移行に関する意識調査結果(国頭地区) 『教職員・指導者アンケート』

R5 教職員:n 89

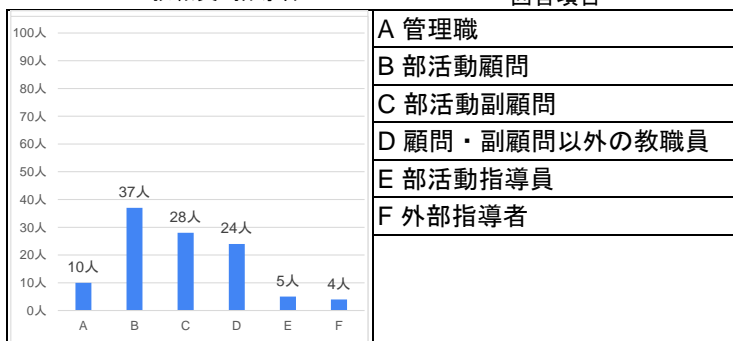
R5 指導者:n 9

R4 教職員+指導者:n 138

【質問1】(教職員と指導者への質問項目)
あなたの役職をお答えください。

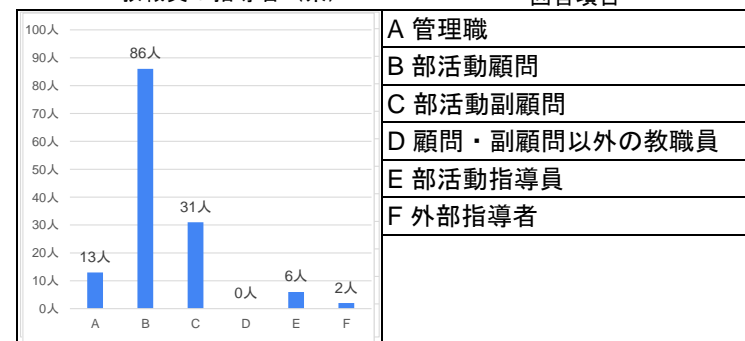
R5 教職員+指導者

回答項目



R4 教職員+指導者(県)

回答項目

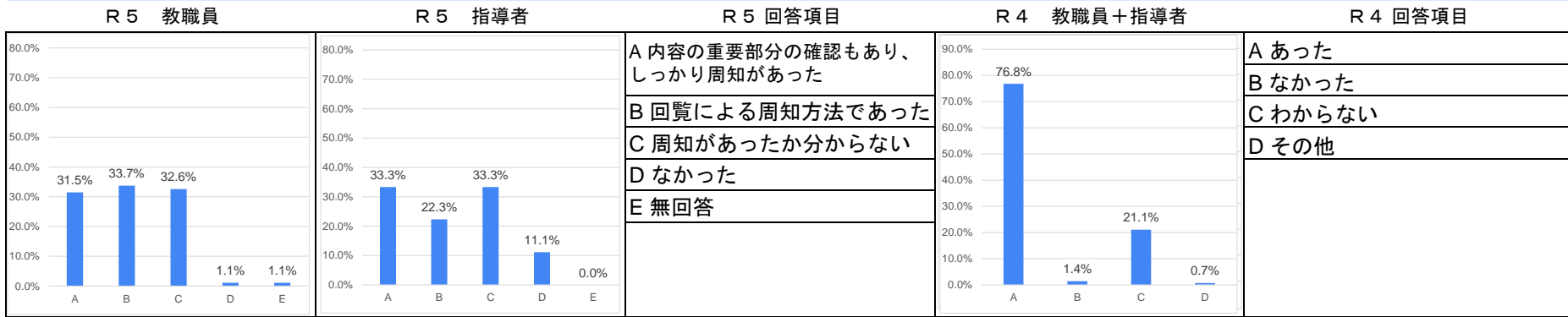


【結果と考察】

○今年度も多くの職員や部活動指導者・外部指導者から回答をいただくことができ貴重なアンケートとなった。
今年度は、教職員と指導者を分けてアンケート調査を行った。教職員については、部活動に直接関わりのない教職員も調査対象とさせていただいた。
今年度は部活動顧問の先生方からの回答率が減った。
QRコードを使用したアンケート調査を行っており手軽に回答できるため、次年度はさらにアンケートへの協力を強化していきたい。

【質問2】（教職員と指導者への質問項目）

各学校において「運動部活動の在り方に関する方針（改定版）」（令和3年12月沖縄県教育委員会）についての周知はありましたか？



【結果と考察】

○今年度は、昨年度実施したアンケートの考察を踏まえ、「周知があった」という回答項目を「A 内容の重要部分の確認と周知があった」と「B 回覧による周知方法であった」の2つに分けた。「A・B」の回答率を合計すると、教職員65.2%、指導者55.6%で前年度を大きく下回る結果となった。

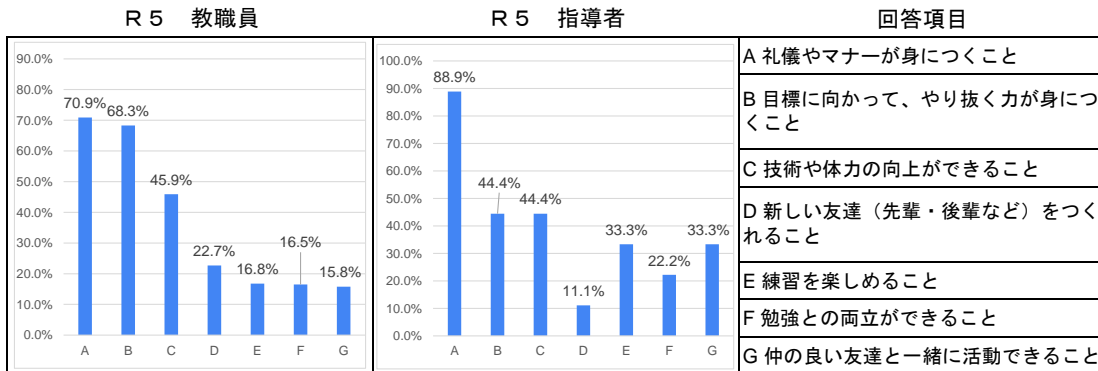
「A 内容の重要部分の確認もあり、しっかり周知があった」という項目は、31.5%であったため、各学校における周知方法の強化を図る必要がある。

「周知があったか分からない」の回答率が約33%であったということからも、「運動部活動の在り方に関する方針（改訂版）」の確認を、年度初めや新チームスタート時等に行えるよう、地区中体連からの呼びかけや地区中体連HP等を活用し、部活動の適正な運営につなげてほしい。

【質問3】（教職員と指導者への質問項目）

部活動の指導を通じて目指していることを教えてください。

※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目



【結果と考察】

○顧問・指導者とも「A礼儀やマナー」「B目標に向かって、やり抜く力が身につくこと」「C技術や体力の向上」に多く回答してる。特にAの割合が多いことから「心・技・体」の「心」を育むことを大切にしていることがうかがえる。

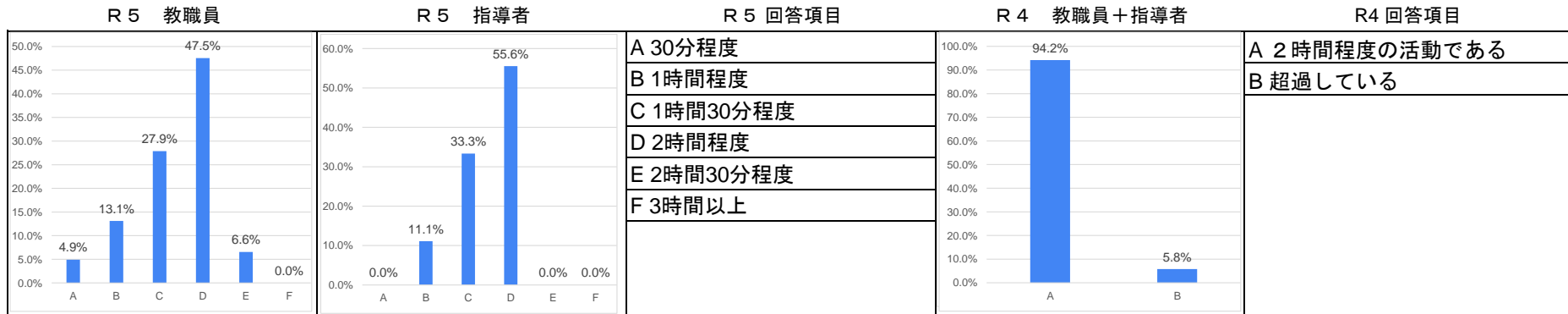
【質問4】（教職員と指導者への質問項目）
部活動を指導している、平日の日数を教えてください。

【R4アンケートでの質問】（教職員と指導者への質問項目）
学期中、平日は少なくとも1日以上 の休養日を設けていますか。



【質問5】（教職員と指導者への質問項目）
平日1日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。

【R4 質問】
平日1日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。



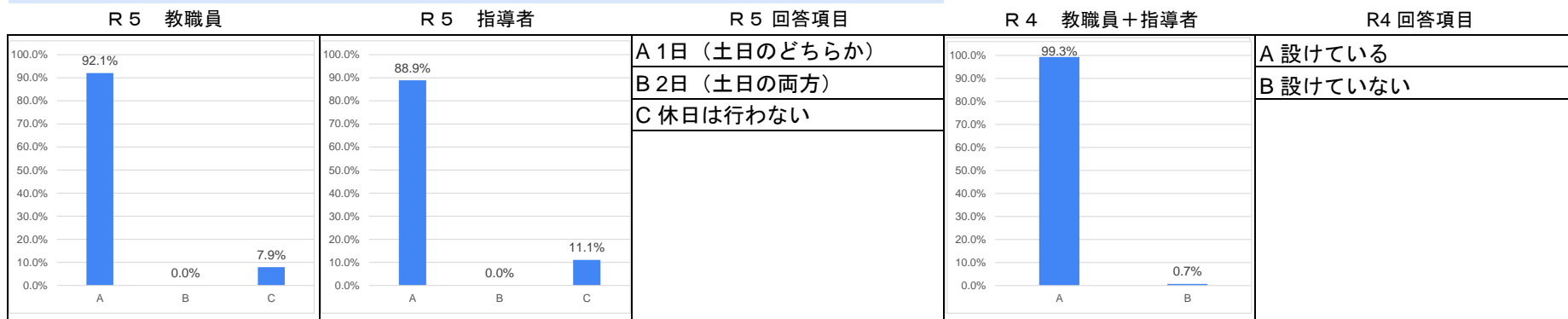
【結果と考察】

○「平日1日以上 の休養日を設けている」部活動は90.2%である事がわかった。昨年度は、99.3%の部活動で「平日の1日以上 の休養日を設けている」（令和2年度は、97.6%）

○平日の活動時間は、93.4%が2時間程度の活動と回答していることから、昨年度と同様に多くの学校において、適切な時間で活動していると伺える。コロナ感染症が感染症法の5類に引き下げられ、通常の練習や大会が開催されてきた影響があると考えられる。しかし、スポーツ医・科学に基づく活動時間の基準等を踏まえて沖縄県教育委員会が定めた活動時間（週11時間程度）についての理解を深め、成長期にある生徒が、バランスの取れた生活を送り、それぞれの目標達成に向けて取り組めるよう更に周知を図ることが大切だと考える。

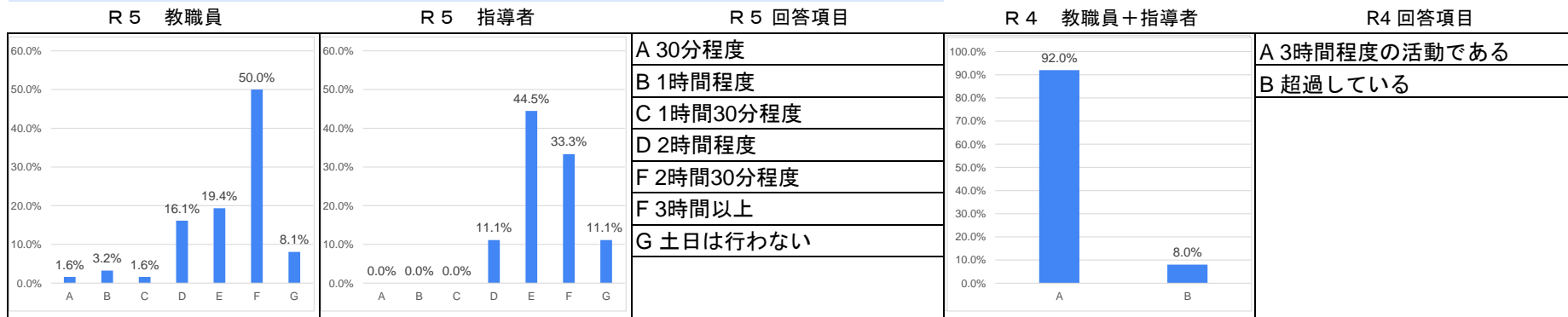
【質問6】(教職員と指導者への質問項目)
部活動を指導している、休日(土日)の活動日数を教えてください。

【R4 質問】
学期中、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上(1日以上)の休養日を設けていますか。



【質問7】(教職員と指導者への質問項目)
休日1日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。

【R4 質問】
休業日(学期中の週末を含む)の平均活動時間についてお答えください。



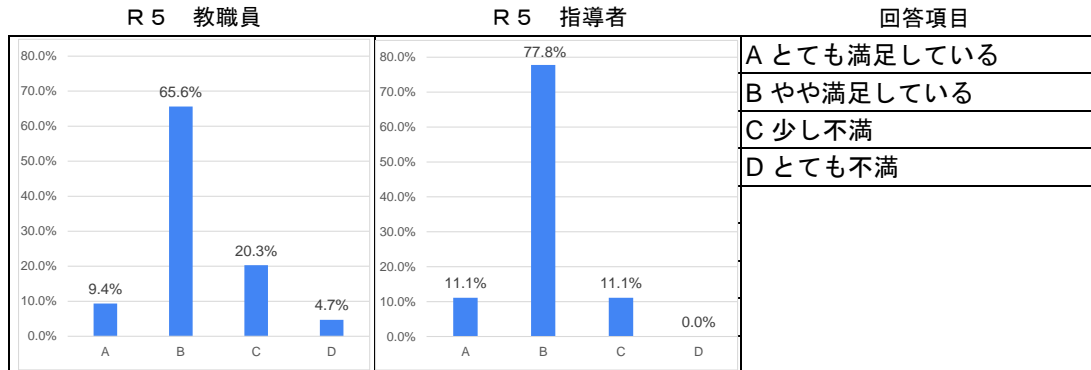
【結果と考察】

○今回はすべての部活動において、「休日は1日の活動」または「休日は実施しない」と回答している。平日・休日ともに休養日を設け心身のリフレッシュを図ることに取り組んでいるといえる。

○休日1日あたりの平均的な指導時間については、教職員の50%と指導者の33.3%が「F 3時間以上活動している」と回答した。昨年度は、92%が「3時間程度の活動である」と回答している。この質問項目についても先ほどと同様に、スポーツ医・科学に基づく活動時間の基準等を踏まえて沖縄県教育委員会が定めた活動時間(週11時間程度)についての理解を深め、成長期にある生徒が、バランスの取れた生活を送り、それぞれの目標達成に向けて取り組めるよう更に周知を図ることが大切だと考える。

【質問8】(教職員と指導者への質問項目)

指導をしている部活動の生徒の様子をみて、今の部活動に満足していると思いますか？

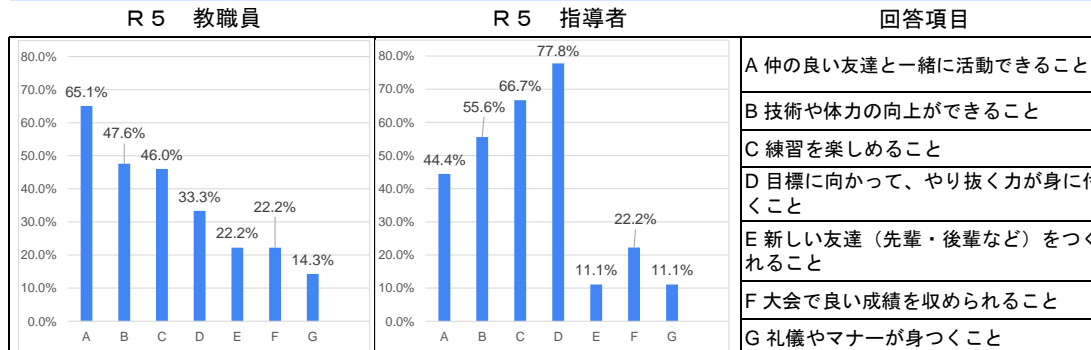


【結果と考察】

○教職員の75%と指導者の88.9%が「A とても満足・B やや満足」と答えており、教職員・指導員からは部活動運営はおおむね上手くいっていると感じているといえる。その反面、教職員の20.3%、指導者の11.1%が生徒の様子をみて、今の部活動に満足していないと感じている事がわかる。何らかの不満がある生徒にも目を向け、課題を解決していく取り組みも必要であると考ええる。

【質問9】(教職員と指導者への質問項目)

指導をしている部活動の生徒の様子をみて、生徒が部活動で満足している(良いと思っている)と思われるところを教えてください。 ※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目



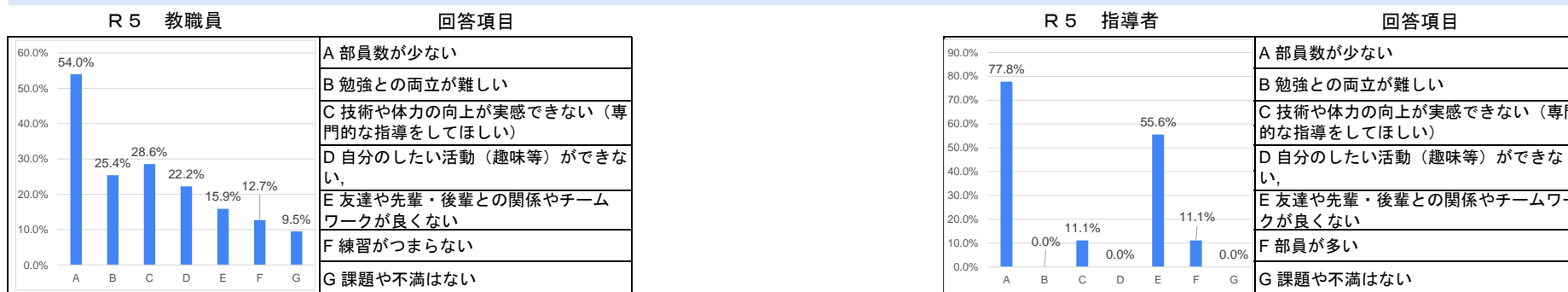
【結果と考察】

○上位4項目については、顧問・指導者ともに同じとなっている。顧問は「A仲の良い友達と一緒に活動できること」が高く、指導者は、「CD目標に向かって楽しみながら練習に取り組むこと」が高くなっている。様々な視点から、教職員・指導者が連携を取りながら部活指導に取り組んでいることが伺える。

【質問10】(教職員と指導者への質問項目)

顧問をしている部活動の生徒の様子をみて、今の生徒が部活動で課題や不満だと思われるところを教えてください。

※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

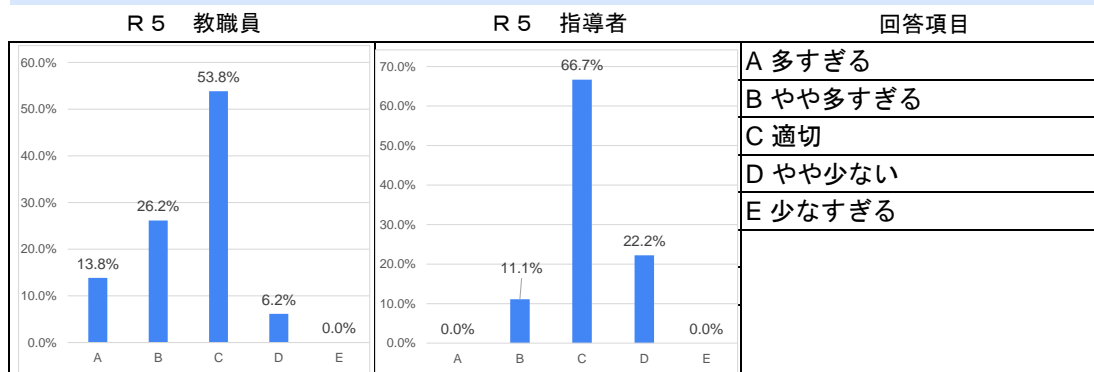


【結果と考察】

○教職員・指導者ともに「A部員数が少ない」ことが共通している。部活動離れや地域クラブ活動等で活動する生徒が増えてきていることが影響していると考えられる。指導者の半数が「E 友達・先輩・後輩の関係やチームワークが良くない」と答えており、チーム内において望ましい人間関係の構築が今後の部活動運営における課題になるだろうと思われる。顧問・副顧問とも共有しながら対応する必要があると考える。

【質問11】(教職員と指導者への質問項目)

学習や趣味、家族や友人との時間を含めて、心身ともに健康でバランスの取れた生活を送っていくために、現在の活動量(時間や日数)は、生徒にとって適切だと思いますか？



【結果と考察】

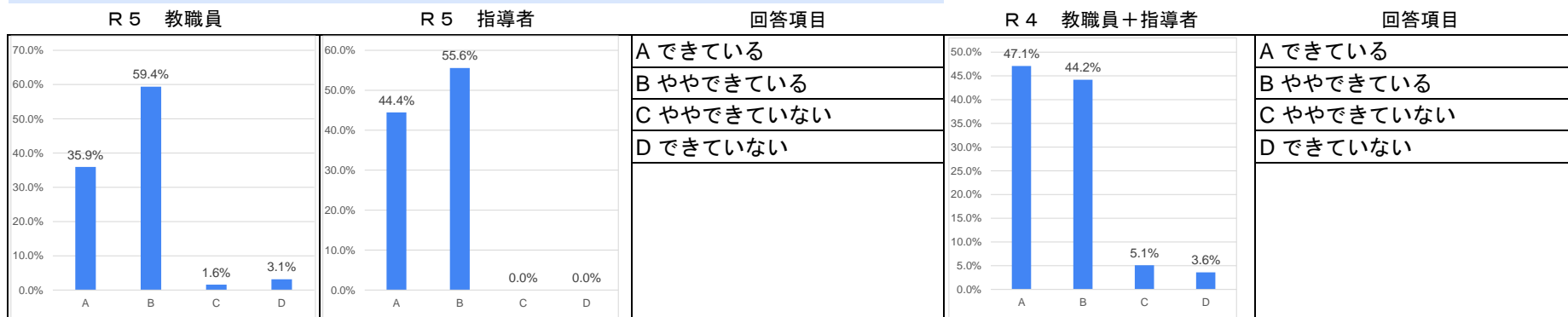
○教職員の53.8%と指導者の66.7%が「C 適切」と回答しているが、40%の教職員と11.1%の指導者が「A 多すぎる、B やや多すぎる」と回答している。指導者の22.2%は「D やや少ない」と回答したことから、現在の活動量(時間や日数)については教職員と指導者の考え方に大きな差がみられた。本県や各学校が示す部活動方針の共有や各部活動における活動方針等の再確認を行い、ベクトルを合わせた活動につながる取り組みが必要であると考える。

【質問12】(教職員と指導者への質問項目)

生徒自らが意欲を持って取り組む姿勢となるよう、心理面を考慮した肯定的な指導等、指導者と生徒の信頼関係を前提とした指導を行っていますか。

【R4質問】

生徒自らが意欲をもって取り組む姿勢となるよう、心理面を考慮した肯定的な指導等、指導者と生徒の信頼関係を前提とした指導を行っていますか。

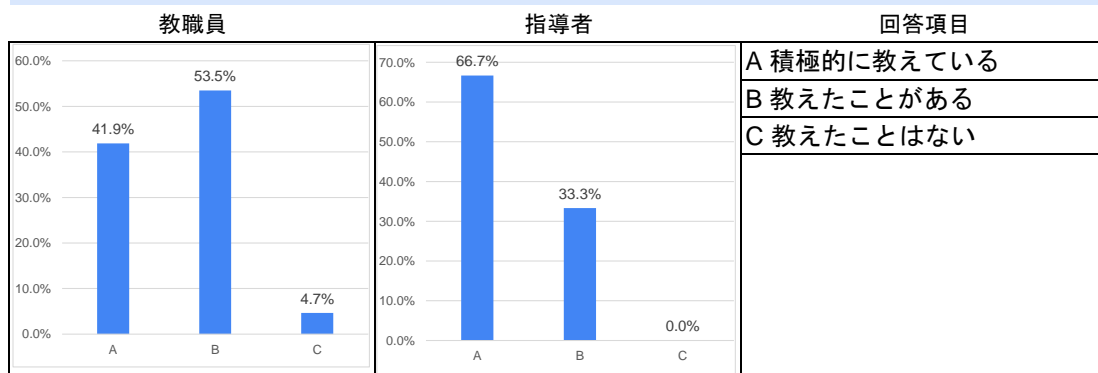


【結果と考察】

○95.3%の教職員と100%指導者が「A できている、B ややできている」と答えている。昨年度は、91.3%の教職員と指導者が「A できている、B ややできている」と回答したことから、指導者と生徒との信頼関係を前提とした「心理面を考慮した肯定的な指導」、信頼関係を重要視して部活動運営・指導に取り組んでいることがわかる。昨年に引き続き、教職員と指導者がこれまでの方法を継続、改善しながら、互いにより良い関係づくりを考慮した指導を実践していると考えられる。一方で、「ややできていない」「できていない」と回答した教職員が4.7%いることから、指導の現状を把握する事や改善策等について共有を図る事が大切であると考えられる。

【質問13】(教職員と指導者への質問項目)

練習のし過ぎは心身の不調やケガなどの原因になること(心身の不調やケガなどを防ぐために、休養をとることが大事なこと)を生徒に教えたことはありますか？

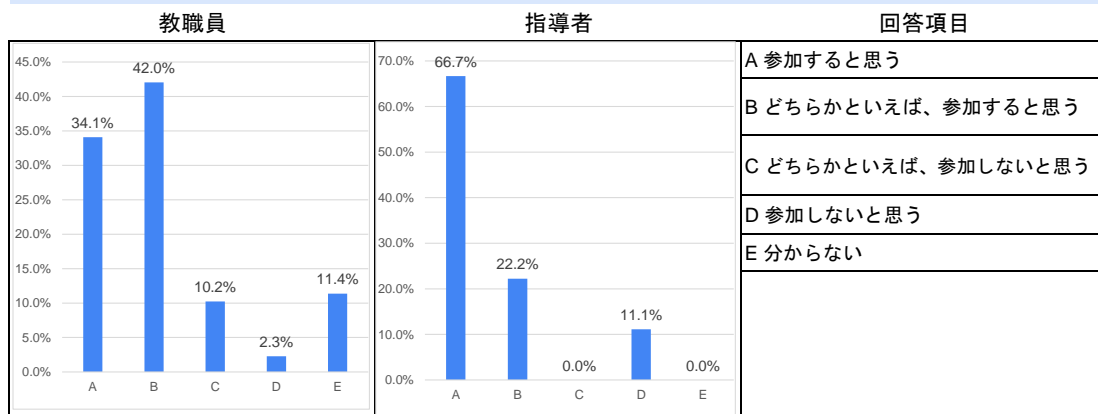


【結果と考察】

○41.9%の教職員と66.7%指導者が「A 積極的に教えている」と回答した。また、53.5%の教職員と33.3%の指導者は「B 教えたことがある」と回答した。ほとんどの教職員・指導者が練習のやりすぎについてのデメリットと休養の重要性についての指導を心掛けている。「C 教えたことはない」と回答した教職員も含め、今後も、心身のバランスを保ちながら心技体の育成に取り組んでいくため、積極的に教えるよう心がけて欲しい。

【質問14】（教職員と指導者への質問項目）

現在、休日（土日、祝日）の部活動の地域移行が推進されています。仮に、週1回（土日のどちらか一日）地域でスポーツ活動が行われるとしたら、生徒たちは参加すると思いますか？



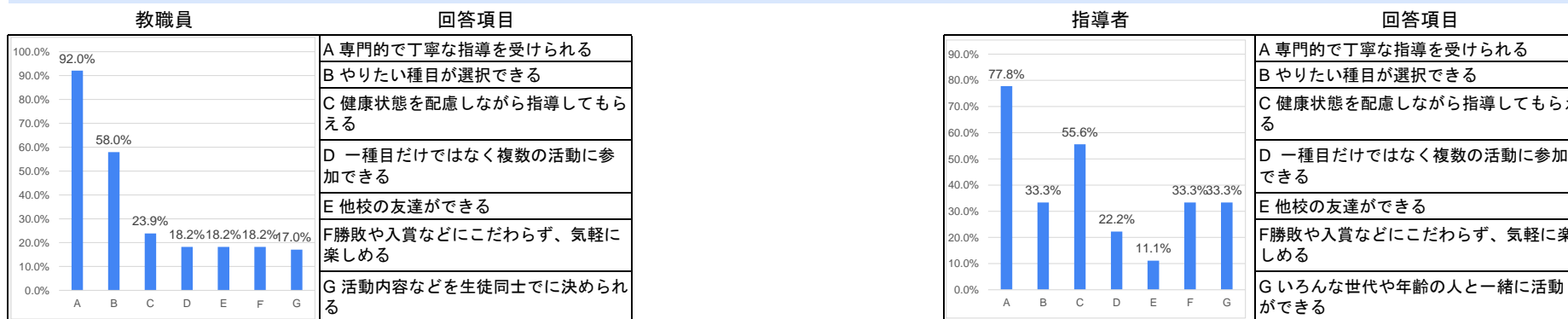
【結果と考察】

○76.1%の教職員と88.9%の指導者が、週末の地域スポーツ活動が実施された場合、生徒たちは参加するだろうと回答している。教職員・指導者ともに、生徒たちの活動場所を確保する重要さの認識と週末の部活動地域移行についての期待感はあるといえるだろう。一方、参加しないと思う・分からないとの回答については、休日の地域移行がどのような形で実施されるのかなどの内容の見通しがたたないことも大きな要因のひとつであろうと思われる。

【質問15】（教職員と指導者への質問項目）

どんなスポーツ活動なら、生徒たちがより満足できるものになると思いますか？

※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目



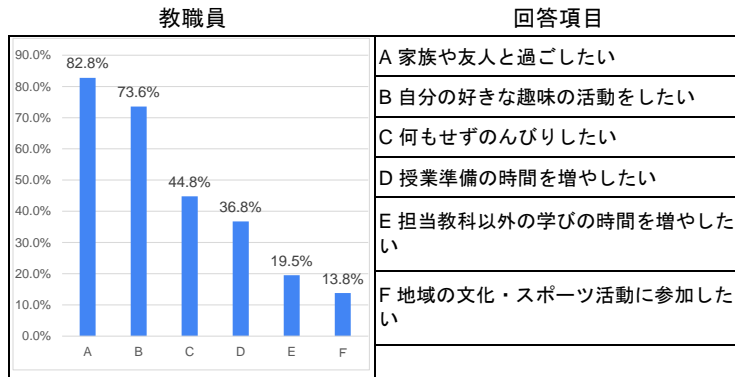
【結果と考察】

○教職員・指導者ともに「A専門的で丁寧な指導・Bやりたい種目の選択・C健康状態に配慮」と答えている。より専門的な知識をもって丁寧に指導することが生徒の満足度を高める大きな要素であると考えていることがうかがえる。

【質問16】(教職員への質問項目)

土日の部活動指導がなくなったときに、どのようなことに時間を割きたいですか？

※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位6項目

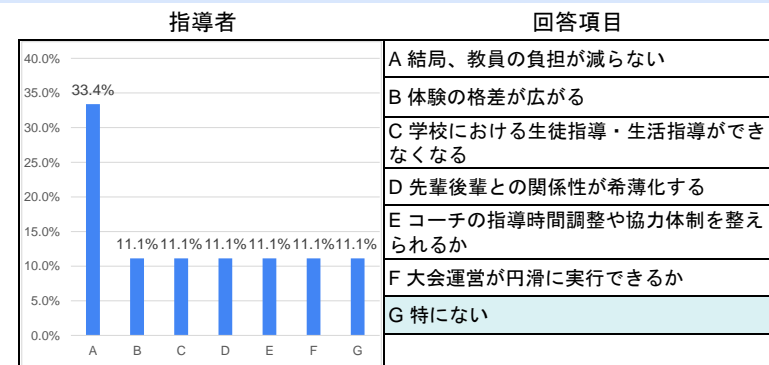
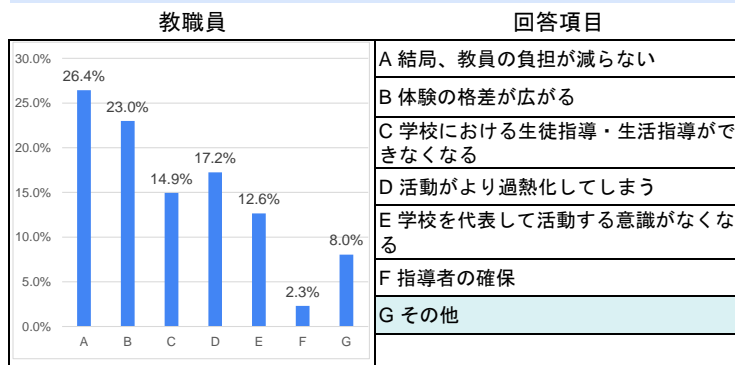


【結果と考察】

○多くの教職員が「A 家族や友人と過ごしたい、B 自分の時間を大切にしたい」と回答している。「D 授業準備の時間を増やしたい」という声も36.8%あることから、日常の業務量に対しての時間不足という面も垣間見える。

【質問17】(教職員と指導者への質問項目)

地域で活動を展開するにあたって課題になりそうなことをご回答ください

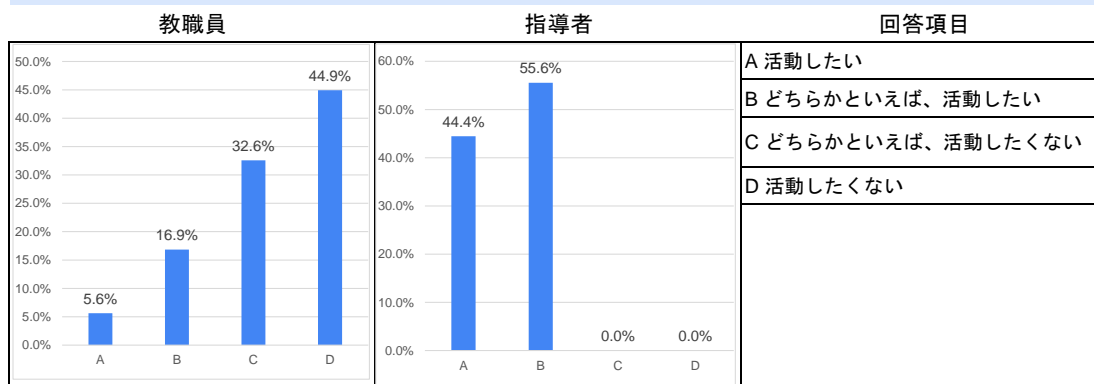


【結果と考察】

○「A 結局、教員の負担が減らない」が共通している。地域で活動を展開するにあたり、教職員・指導者が間に入って調整することになるため、結局負担が減らないのではないかという見方をしていると思われる。また、「B 体験の格差が広がる」「D 活動がより過熱化」については、専門性を持った指導者のいる地域の格差や指導における過熱化への懸念があるとみられる。「C 学校における生徒指導・生活指導」については地域指導者と連携しながら進めていくことがポイントであると考えられる。

【質問18】(教職員と指導者への質問項目)

今後、「休日」の部活動が地域移行された場合に、地域指導者として活動を行いますか？



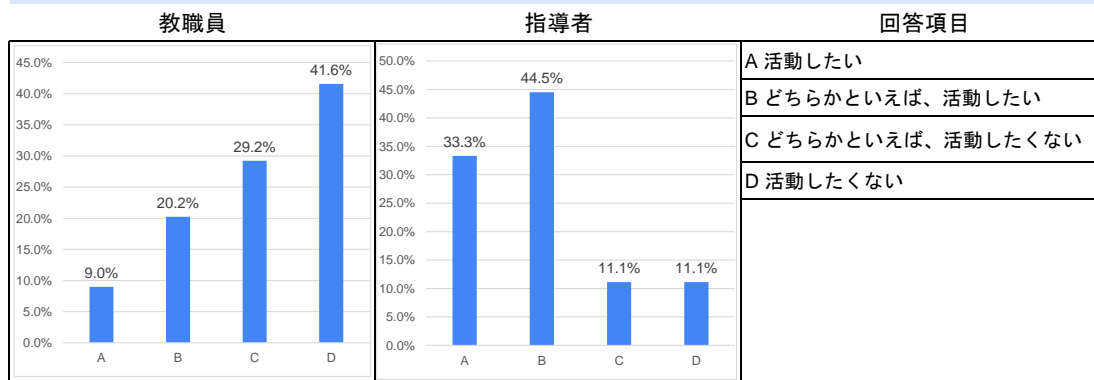
【結果と考察】

○教職員と指導者で真逆の回答となった。教職員は「Cどちらかといえば活動したくない・D活動したくない」が77.5%となり、指導者は「A 活動したい・B どちらかといえば、活動したい」が100%となった。

教職員は、地域指導者として活動した場合、現在の負担感が変わらないことや地域との連携、新たな課題が生まれること等から、消極的な回答につながったとみられる。指導者は地域移行されても引き続き活動に携わりたいと考えている。

【質問19】(教職員と指導者への質問項目)

将来的に「平日」の部活動も地域移行された場合に、地域指導者として活動したいと思いますか？

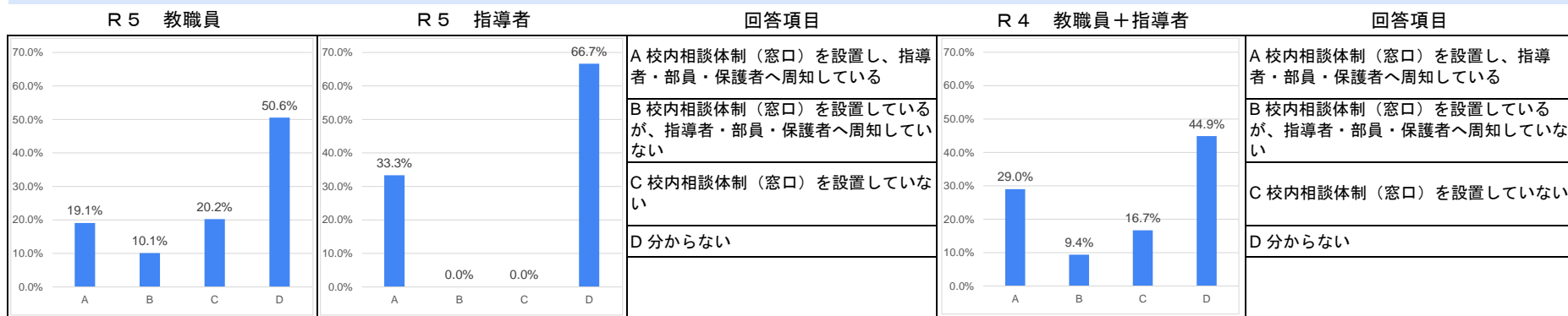


【結果と考察】

○教職員は「C どちらかといえば活動したくない・D 活動したくない」が70.8%となり、指導者についても22.2%が「C・D」と回答してる。教職員については、上記考察と同様と考えられるが、指導者については、現在、務めている組織が承諾すること等も関係し、上記質問(休日)よりも減となる回答率になったと考えられる。

【質問20】（教職員と指導者への質問項目）

各学校において、部員やその保護者からの部活動における暴力・暴言・ハラスメントの校内相談体制（窓口）を設置し、指導者・部員・保護者へ周知していますか？



【結果と考察】

○「A」の項目は、昨年度より約9%回答率が下がり、「C」・「D」の回答率が上がっている。

多くの学校が実質的に、顧問・副顧問・担任・副担任等→部活動担当→部顧問会・管理職という相談体制を取っていると思われるが、校内相談体制（窓口）が具体的に示されていない学校が多いのではないかと考えられる。年度当初で部活動の相談体制についての整理・確認・周知が必要である。学校・指導者・部員・保護者が一丸となり、暴力・暴言・ハラスメントを根絶するとともに、生徒の人権が尊重され、健全で充実した適切な部活動が実現されるよう取り組んでいく必要がある。